

令和5年度第1回清水町子ども・子育て支援会議
【議事録】

日時 令和5年8月3日(木)18時00分～19時20分
場所 清水町保健福祉センター 2階 会議室

■ 出席者

委員 下坂吉彦 上谷明美 永田弘彰 堀敦子 新井田典子 谷口大樹
庶務 寺岡補佐 方川児童保育係長 高橋子育て支援係長
主催 阿部町長
傍聴 無し

1 開 会 〈寺岡子育て支援課長補佐〉

ご案内の時間となりましたので、ただいまから清水町子ども・子育て支援会議を開催いたします。大変暑い中、またお忙しいところお集りいただきましてありがとうございます。課長につきましては、体調不良のために出席できませんので申し訳ありませんが、私のほうで会議を進めさせていただきます。

この会議につきましては、まちづくり基本条例によりまして、審議会の会議録を公表させていただきます。本日の審議会につきましても、発言者の名前を表示した会議録をまちづくり情報コーナーに、会議の要旨を町のホームページにおいて公表させていただきますので、ご了承くださいますようお願い申し上げます。委員のみなさんの任期は2年となっており、昨年度から引き続き努めていただくこととなりますが、こども園の父母会長及び主任児童委員が交代されましたので、該当の方には委嘱状を交付し、略式ではありますが、机の上に用意させていただいております。どうぞよろしく願いいたします。

また、本来でしたらここで町長より主催の挨拶をするところですが、本日は別の公務のため欠席させていただいておりますのでご了承ください。

はじめに会長からご挨拶をいただきたいと思います。

2 会長あいさつ (下坂会長)

みなさまお疲れのところお集まりいただきありがとうございます。

第1回目の子育て支援会議となります。

昨年はこども園開設に向け皆様でいろいろな審議を行ってきました。

今回の議案は、こども園の現在の開設状況などが事務局から説明があると思います。また、新しく開設された、こども家庭庁の概要についての説明となっており、それぞれ資料に沿いながら説明があると思います。

皆様の忌憚のないご意見等をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

3 議 事

(1) 清水町立認定こども園の開設について（資料1）

(下坂会長) それでは、早速、議題に進みたいと思います。

一つ目 清水町立認定こども園の開設について説明をお願いします。

(事務局) 【資料1に基づいて説明】

(下坂会長) なにか質疑、ご意見等ありましたらお願いいたします。

(上谷委員) おむつのサブスクの導入について検討されていますか

(事務局) 近隣の状況などは確認しています。まだ導入しているところはあまりないようです。おむつについては同時期に処分方法についても話題となっていましたが清水町では園で処分していたため、その点では保護者の負担が少なかったかと思います。おむつのサブスクについては、すぐに導入する予定はありませんが引き続き情報収集等行いたいと思います。

(堀委員) 1号認定のお子さんは何人いますか

(事務局) 昨年度は30名弱おりましたが、今年度は20数名となっております。

(谷口委員) 清水高校との連携などは大変良い取り組みだなと思います。小学校との連携は、幼稚園がなくなって幼保・小連携ではなくどうなるのかなと、単に名称の話ですけど。この中で3つの育みの確かな学力とありますが、こども園のたしかな学力とは具体的にどういうことを言うのでしょうか。

(事務局) 学力と言いましても年長になったから45分間座って勉強をするということとはしません。こども園では、日々の活動において自主性、主体性、探究心を高めるような環境構成に努めています。また、大人を信頼してこの人のお話なら興味を持って聞きたいと思わせるような関わりに努めています。

小学校からの学びの基礎となるような心と体をつくる教育保育活動をしています。

(2) こども家庭庁の概要について

(下坂会長) では次に資料2についての説明をお願いします。

(事務局) 【資料2に基づいて説明】

(下坂会長) なにか質疑、ご意見等ありましたらお願いいたします。

(谷口委員) 資料に全国の数字ではありますが貧困率の割合が7人に1人となっています。清水町の数字はありますか。

(事務局) 貧困率の調査は行っていませんので、清水町の数字はでていません。相談や虐待対応の中で背景に貧困が見えることがありますので、個別に対応、支援している状況です。

(谷口委員) 子どもの権利について触れた内容だったが、子ども本人の意思を尊重することは当然だと思う。不登校、学校に行きたくないという子は本人の意思を尊重するとなると、行かないことを認めることになってしまう。昔は登校拒否と違って今とは違う理解、かかわり方だった。なぜ行きたくないのか、学校にいきたくなるようなかかわりをしながら進めたいが、その対応は本当に難しいことだと思います。

(永田委員) 他の国と比べると日本の子どもの幸福度が低いことに驚きました。最近のこどもは、ユーチューブを見たり、ゲームをしたりして遊んでいるようだ。将来の夢なども自分の子どものごころとは違いユーチューバーになりたいという子どもが多い。ゲームの内容もキル数を競うなど、命を尊重しないような内容もある。町内では、外で遊んでいる子どもを見かけない。清水町の公園にはこどもが楽しく遊べる遊具が少ないと思う。例えば、芽室町や中札内には町外から人がたくさん集まる大きな公園がある。子どもの集まる施設があれば、飲食店も利用するだろうし大きな経済効果があると思う。公園をきっかけに経済がまわるような町づくりはできないかと思う。現在、御影公園の噴水を工事しているようだが、せっかく工事するな

ら子どもがもっと楽しく水遊びできるような仕組みをつくったらよいと思う。

(上谷委員) 遊びに行くことだけでも、場所や内容により育ちの豊かさにつながっていると思う。身近にそのような場所がないと、経済的に他の町などへ遊びに行かない子どもにとっては、いろいろな遊びの経験ができず、格差につながる。身近に子どもが集まる施設があることも格差の解消になると思う。

(上谷委員) 毎年11月にこどもフォーラムを行っている。
子どもたちがいろいろ考え意見を発表する場所がある。せっかく子どもたちが考えた意見にも、町で実現させるなど答えがない、答える大人もいないのはとても残念だと思う。子どもの意見を取り入れる仕組みを作るべきではないか。役場は縦割りではなく横断的に考えてほしい。

(上谷委員) こども家庭庁ができ子どもに係ることが一本化するようだが、清水町も名称変更などすることになるのか。

(事務局) 現在、保健福祉課主体の子育て世代包括支援センターと子育て支援課主体の子ども家庭総合支援拠点を設置し、連携して取り組んでいる。同じ建物の中で運営しているので、窓口は一つになっており連携もスムーズだが、国からはこれを一つにしたこども家庭センターを設置するよう求められている。国の動向指示などにより変わっていくこともある。

(上谷委員) 町民がせっかく覚えた名称を変更することで、混乱のないようにしていけると良いと思う。

(下坂会長) その他ございませんか。よろしいでしょうか。

(下坂会長) その他事務局よりありますか。

(事務局) 次回日程予定を説明。

4 閉 会 皆様、協議のほど大変ありがとうございました。
本日はありがとうございました。